



INABE BRAND

いなべブランド Since 2005



選ばれるまち。
いな、いなべ。

いなべブランド冊子 2019年度版

三重県 いなべ市

THIS IS INABE BRAND

選ばれるまち。いなな、いなべ。



この冊子は、これまでの活動をまとめたものです。既に全国的な行政サービスとして普及したのものも含まれます。



INNERBAY

いなべブランドロゴ

INABE の I と B の文字をモチーフに、人と人が支え合う姿と、青は豊富な水が流れる員弁川、オレンジは躍動する市民の活力、緑は自然豊かな大地を表現しています。

THIS IS INABE BRAND

選ばれるまち。
いなな、いなべ。

Contents

ブランドの目的	6
いなべブランド既存事業	10
● ママ元気 赤ちゃんすくすく	11
● どこでも子育て支援！	12
● 生きる力をつなげるチャイルドサポート	13
● 検査、発見、元気なからだ	14
● 健診受けて湯かった	15
● 「からだ」も「地域」もゲンキに！～元気リーダー始動～	16
● 「元気づくり」は「地域づくり」！いなべから全国へ	17
● 青川の清い流れと緑で…元気注入！	18
● 「いなべの里の蕎麦」全国への挑戦	19
● 三重県モデル いなべの集落農業	20
● 農業公園発！スローライフとロハスな暮らし	21
● 世界のプロサイクリストが集うまち いなべ	22
● どの子もわかり参加できる授業づくり	23
● 地域と共に育つ学校	24
● ふるさとの川にすむネコギギを守ろう	25

Contents

● プールで育む子どもの元気～安全と笑顔～	26
● 美しい水環境の創出	27
● 地域のHERO消防団	28
● 納税意識の高いまち、いなべ	29
● リンクでつなげよう市民の輪	30
● YouTubeでシティプロモーション	31
● 先進的文書管理「ファイリングシステム」	32
● 学校ICT活用事業	33
● 笑顔と感謝が奏でるメロディー 全国初！ 楽器を寄附するふるさと納税	34
終了したいなべブランド事業	35
● みんなでサポート「働く笑顔」	36
● ホタルの里づくり	37
● 学校と地域が取り組む花壇づくり	38
● できることから始める環境教育	39
● 全国1位の電子市役所	40
いなべ市について	41

THIS IS INABE BRAND

ブランドの 目的

いなべブランドの目的

長期ビジョン

住みたいまち・住み続けたいまち いなべ
挑戦する人が集う 元気あふれるまち いなべ

短期ビジョン

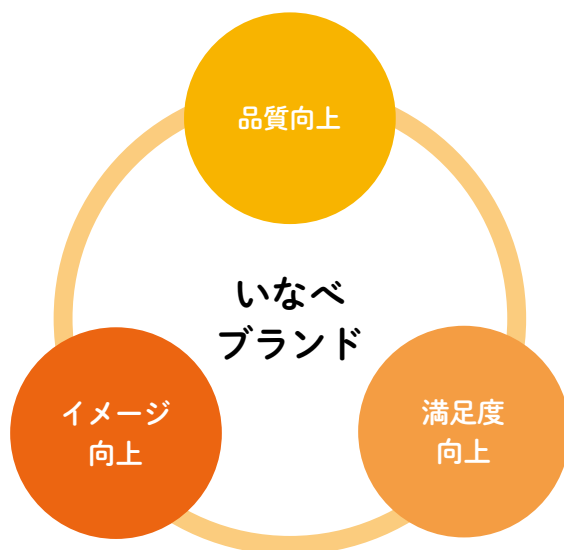
市民の満足度向上
市内外のいなべ市に対するイメージの向上
(人、企業、団体、自治体)

いなべ市が目指す長期ビジョン



平成27年度策定の「いなべ市まち・ひと・しごと創生総合戦略計画」に基づいて、いなべ市民やいなべ市を訪れた人に『いなべ市は本当に“いなべ!”と実感していただけるように、いなべブランドと言われる先進的な行政サービスを創造し、提供し続けることで、ひともまちも元気な活力あふれるまちを目指しています。

いなべ市が目指す短期ビジョン



品質向上のために

いなべブランド事業は、市役所のサービスをより向上しようとチャレンジや改善を重ね続けた結果、生まれました。いなべブランド事業を創り磨き上げることで、更なる品質向上につなげます。

満足度向上のために

いなべブランド事業を創り磨き上げる。それは高品質を約束し、信頼関係を築き上げ、市民満足度を向上させることです。

イメージ向上のために

まちのイメージは、人が「住み」「訪れ」、企業が「進出する」うえで重要な要素です。このイメージは、市役所のサービスの優劣によっても大きく左右されます。ブランド事業を発信しイメージ向上につなげます。

基本姿勢

行政サービスの品質向上に向けて
創意工夫(挑戦)し続ける

SDGsといなべブランドの推進

いなべブランドとは、行政サービスの品質向上に向けて創意工夫（挑戦）し続ける活動とその理念に照らし合わせて市が認定した行政サービスです。

国連サミットで全会一致で採択された、17の国際目標であるSDGsを共通のものさしとして、いなべブランドの各事業にSDGsの視点を取り入れました。このSDGsをキーワードにいなべブランドを推進していくことによって、持続可能なまちづくりの推進を図ります。

市民の満足度向上、市内外のいなべ市に対するイメージの向上を図り、「住みたいまち・住み続けたいまち（信頼と絆）」、「挑戦する人が集う元気あふれるまち（元気・活力）」を実現します。

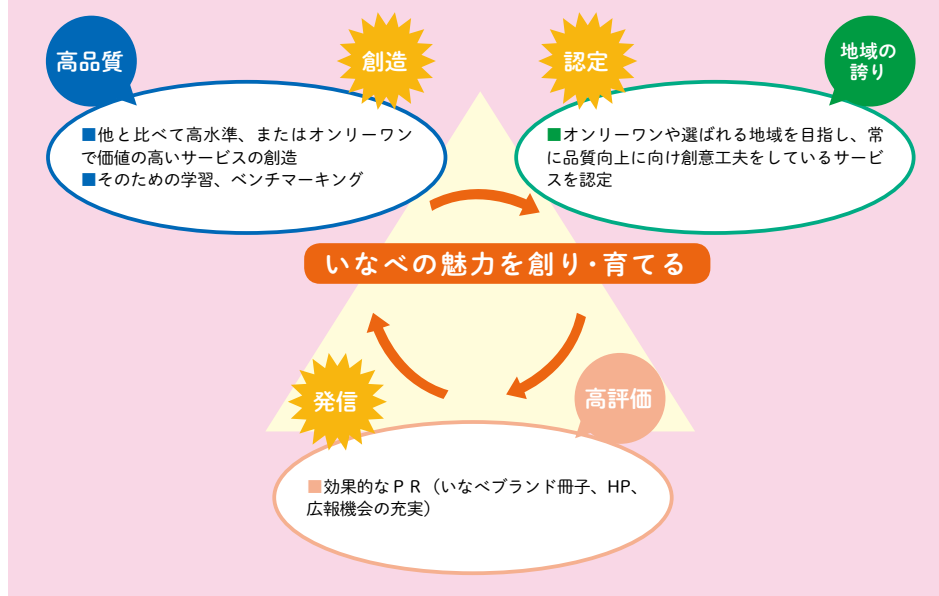
いなべブランド確立イメージ図

いなべブランドにSDGsの視点を取り入れ、いなべの魅力を作り・育てます。



SDGsの視点

持続可能か？



THIS IS INABE BRAND

既存ブランド
事業



ママ元気 赤ちゃんすくすく

こんにちは赤ちゃん訪問事業

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
「いなペブランド」

健康や病気に関する“専門家”保健師が、乳児（おおむね生後2か月から4か月）がいる全ての家庭を訪問します。赤ちゃんの成長や健康はもちろんのこと、ママへの質問票（EPDS※）でママの安心もサポート。日本公衆衛生学会の優秀演題、NHK「おはよう日本」での紹介など、トップランナーとしての取り組みが高く評価されています。

※エジンバラ産後うつ病自己調査票

事業概要

保健師は、看護師の資格に加え、病気やけがの予防を手助けする国家資格をもった健康や病気に関する専門家 specialist です。担当課に保健師資格をもった職員を配置しています。

予防接種、母子保健事業（健診・育児相談等）などの情報や、子育て支援センター、保育所など、赤ちゃんの成長に応じた情報を提供します。また、ご家庭にあった子育ての方法をママと一緒に考えます。

何故、赤ちゃん訪問！？

子育ては、初めてでも、二人目でも、不安が一杯で気づかないうちに産後うつ状態に陥っていること

もあります。だからこそ、子育て中のお宅へ訪問し、悩みを積極的にお聞きし、専門的なアドバイスにより不安の解消のお手伝いをします。

育児不安の強い母親や支援の必要なお子様に対しては、各課や関係機関とも連携し、訪問や電話相談など、成長に応じて継続的に支援します。

■こんにちは赤ちゃん訪問の状況

	対象者	訪問実施	訪問率
H27	385件	385件	100%
H28	385件	385件	100%
H29	306件	301件	98.4%
H30	314件	305件	97.1%



赤ちゃんの発達確認



赤ちゃんの身長計測



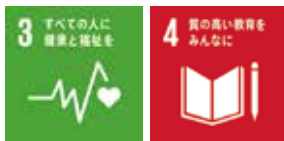
母子健康手帳の確認

評価・
マスコミ
紹介等

- ・全国CR-1グランプリ（H22年）優秀賞
- ・日本公衆衛生学会（H21年）優秀演題
- ・三重県公衆衛生学会（H20年）奨励賞
- ・NHK「おはよう日本」（H19年）放送
- ・厚生労働省全国都道府県児童福祉主管課長会議で紹介（H19年）

お問合せ

健康こども部 健康推進課
電話 0594-86-7824
FAX 0594-86-7864
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



どこでも子育て支援!

各種子育て支援事業

事業開始年月日 平成17年4月1日

こんなところが
“いなペブランド”

満2歳までに全ての親子に2回絵本を読み聞かせ、1歳の誕生日に足型をプレゼント。保育士が合計3回面談し、子育て家庭の孤立化を防ぎます。常設の子育て支援センター5か所に加え、様々な出前メニューが自慢。保育士が地域へ積極的に出向いて子育てを支援する日本で唯一！子育て支援専用軽自動車（キャンピングカー仕様）「おでかけGo(号)」は、人と人をつなぎ子育ての輪を広げる強力なツールです。

事業概要



① 出生前
子育てガイドブック



② 6ヶ月
ブックスタート



③ 1歳
1歳おめでとう訪問



④ 2歳
ブック・Reスタート



⑤ 子育てランド



⑥ 出前ひろば・出前テントひろば



⑦ 子育て応援団

①
子育てガイドブックを妊娠届や出生届の際に配布します。

②④
子育て応援団が子育て支援センターで絵本の読み聞かせをします。参加できなかったお宅へは保育士が訪問し、絵本をプレゼントします。

③
保育士が全戸を訪問して足型をプレゼントします。

⑤
2歳児を対象に保育園を開放し、保育園の雰囲気を楽しむ、親同士の交流の場を提供します。

⑥
「おでかけGo(号)」におもちゃをたくさん積んで地域の公民館、公園などに出向きます。

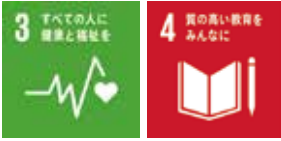
⑦
地域で支えあう子育ての輪がさらに広がるよう地域住民が子育てを応援します。

評価・マスコミ紹介等

- ・H23年度 おでかけGo(号) NHKニュース845、ほっとイブニング、CBCラジオなどで紹介
- ・H22年度 出前テントひろばの様子が第2回子育てひろば0123育ちの詩 フォトひろば物語入選
- ・H21年度 各種子育て支援施策 内閣府HP「わがまちの子育てお国自慢」で紹介

お問合せ

- 1 健康こども部 児童福祉課
電話 0594-86-7821
- 2 健康こども部 保育課
電話 0594-86-7823
- 3 健康こども部 健康推進課
電話 0594-86-7824
(共通)住所 いなべ市北勢町阿下喜31
FAX 0594-86-7864



生きる力をつなげる チャイルドサポート

チャイルドサポート事業

事業開始年月日 平成21年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

こどもの健やかな育ちのために、市部局間の垣根を取り払い創り上げたシステムです。こどものライフ・ステージに合わせ、母子保健・保育・教育・障がい福祉の各部門が連携。発達に支援を要するこどもを、出生から就労まで途切れなくつなぎ、支援します。

事業概要

○見つける

- 母子保健・保育園・子育て支援センターが連携し、支援が必要なこどもに、より早く支援できる活動を行います。

○見守る

- 乳幼児健康診査や発達相談・就学相談の結果、必要と思われるこどもには保育園と保健師・発達アドバイザー等が連携して支援や見守りを行います。
- 3～5歳が在籍する市内の全保育園で、三重県が開発した統一の手順によりこどもの発達状況を確認します。

○支援する

- 発達状況により、支援が必要と思われるこどもには保育園が個別の指導計画を作成し支援を行います。
- 丁寧な支援が必要と思われるこどもには、保護者の同意の下、未就園児には健康推進課が連携して、在園児には保育課・発達支援課・社会福祉課が連携・協働して、通級型の療育教室を行い支援します。

○つなげる

- 得意なこと、苦手なことを含めて、こどもの姿

を保育要録として保育園から小学校に引き継ぎます。

- 小中学校では、教育支援委員会の意見や保育要録を基に校内委員会で検討し、こどもの状況に合わせた特別支援教育を推進しています。
- 支援を要するこどもには、その特性や保護者の願いを引継ぎ、より良い支援が受けられるように相談支援ファイル（ハピネスファイル）を活用します。

○高める

- 保育園の特別支援保育コーディネーターと、小中学校の特別支援教育コーディネーターが連携するとともに、合同で研修を行っています。
- 保育園や小中学校では、各種巡回相談・研修・指導を充実させています。
- 保護者、保育士、教員など、こどもの支援者を援助するために、発達支援課に専門職員（公認心理師・言語聴覚士・作業療法士など）を配置しています。



相談支援ファイル
「ハピネスファイル」



通級型小集団療育教室

評価・
マスコミ
紹介等

- H30・31年度文部科学省「切れ目ない支援体制整備充実事業」を実施。
- H28年9月、県政チャンネル「輝け！三重人」でチャイルドサポート事業が紹介されました。

お問合せ

健康こども部 発達支援課
電話 0594-86-7825
FAX 0594-86-7864
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



検診、発見、元気なからだ

保健検診事業

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
“いなべブランド”

市民の高い健康意識と、忘れずに、いつでも、どこでも、必ず検診できるきめ細やかなサービスにより、平成26年度がん検診受診率三重県1位（胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん）と同3位（乳がん）。市民の健康増進に大きく貢献しています。

事業概要

「巡回ドック」「病院ドック」「各種がん検診」のそれぞれの検診で、がん検診を実施しています。毎年3月初旬に受診希望調書を各個人に郵送し、各検診受診希望者の把握を行い、検診時期が集中しないようにしています。希望される全ての人に受診していただけるよう、また、受診者の負担が出来るだけ軽くなるよう、次のような工夫をしています。

- ① 本年度に受診した人には、翌年度新たに申込をしなくても自動的に受診できるようにしています。
- ② 受診者の都合による日程変更にも柔軟に対応できるようにしています。

■平成29年度地域保健・健康増進事業報告

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
いなべ市	25.4	17.8	21.0	27.2	31.3
県	12.3	8.0	9.2	20.4	18.0
国	8.4	7.4	8.4	16.3	17.4

- ③ 国民健康保険加入者には、がん検診と特定健康診査（国保事業）が同時に受診できる総合検診（人間ドック）として、巡回ドック（旧4町の市施設で実施）と病院ドック（いなべ総合病院・日下病院）が選択できるようにしています。

- ④ 「各種がん検診」は、申し込んだ全て（肺がん検診以外）の検診を同日に受診できるようにしています。

- ⑤ 子宮頸がん検診は病院と提携して一人でも多くの人が受診できるようにしています。



検診に訪れる市民の皆さん



庁舎前の検診車（巡回ドック）

評価・
マスコミ
紹介等

中日新聞(H23年3月18日掲載)
H21年度三重県内全市町のがん検診受診率
1位 乳がん、子宮がん、胃がん、肺がん
2位 大腸がん

お問合せ

健康こども部 健康推進課
電話 0594-86-7824
FAX 0594-86-7864
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



健診受けて湯かった

特定健康診査事業

事業開始年月日 平成25年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

健診の受診者に阿下喜温泉の利用券「お得（とく）ーポン」をプレゼントし、健康増進に積極的に取り組む市民を応援しています。

また、医療費分析により健康課題を見つけ出し、保健指導に活かしているのも特徴です。

事業概要

特定健診は生活習慣病のリスクを早期に発見するためのものです。大切な健診なのですが、国民健康保険加入者の健診受診率は全国的にも低く、どうしても皆さんに健診を受けてもらえるか、各市町では工夫を凝らしています。

市民の健康意識が高い当市は、特定健診の受診率が県内でもトップクラス。しかし、それでも受診率は50%ほどです。

健診を受けて、自分の健康管理を自ら取り組む人に対しては、インセンティブとして何か特典をという思いから、平成25年度から「健診受けて湯かった事業」を実施しています。

国民健康保険特定健診受診者へ「お得ーポン」を配布し健康増進に積極的に取り組む方を応援しています。

お得ーポン:健康増進施設阿下喜温泉入浴券2枚・トレーニングルーム利用券1枚、ラフィーラ体操利用券1枚(1,700円相当分)

平成29年度お得ーポン利用者は延べ3,400人でした。

○糖尿病を知る集い

医療費を分析したところ、いなべ市では糖尿病に焦点を当てた対策が必要であると判断しました。そこで、特定健診の結果を元に健康推進課と連携し糖尿病予備軍の人に、特定保健指導教室「糖尿病を知る集い」を開催しています。

健康推進課が食事・運動の管理などを指導し、保険年金課はデータの分析等で保健指導をサポートしています。参加者は楽しく学びながら生活改善に取り組み、成果をあげています。

	受診率 (H29年)
全国平均	36.7%
三重県平均	43.0%
いなべ市	49.0%



お得意ーポン



岩風呂



トレーニングルーム

お問合せ

市民部 保険年金課
電話 0594-86-7811
FAX 0594-86-7863
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



「からだ」も「地域」もゲンキに! ～元気リーダー始動～

元気づくりシステム 1 健康増進事業 2 介護予防事業

事業開始年月日 拠点コース…平成14年4月 集会所コース…平成19年4月
元気リーダーコース…平成20年10月

こんなところが
“いなべブランド”

健康増進と介護予防を目的に、体操を自治会の集会所などで実施。参加者は運動習慣によって体も心も健康になり、地域活動にも積極的に参加するようになって地域を元気にしています。所定の回数を受講した「元気リーダー」が指導者となり、地域の中で「元気づくりシステム」を広げています。医療費を抑えながら元気な生活がおくれ、地域のマンパワーを活用した仕組みが高く評価され、第3回健康寿命をのばそう！アワードで「厚生労働大臣 優秀賞」を受賞しました。

事業概要

元気づくりシステムは、ストレッチ体操、ウォーキング、ボール運動などを取り入れた健康増進、介護予防体操です。介護予防体操は、運動器の機能向上を主な目的とした体操で「一般社団法人 元気クラブいなべ」のオリジナルです。コースは、大きく分けて「①拠点コース」、「②集会所コース」、「③元気リーダーコース」の3コース。

住民自立型 84 地区・元気リーダー 886 名
(平成 30 年度末)

①拠点コース…

市内の体育館などの4施設で1回2時間程度の運動を実施



全国地域づくりサミットで、元気リーダーによる体操を披露【いなべ市北勢市民会館で】

②集会所コース…

指導員が集会所まで出向き、運動を中心に1回90分間、週2回6か月間実施103地域で実施(平成30年度末)



元気リーダーによる活動の様子【北勢町畑毛地区】

③元気リーダーコース…

集会所コースを終了した参加者のうち、30回以上受講した人が「元気リーダー」となります。集会所コース終了後も、引続き集会所でストレッチ体操、ウォーキングなどの指導者となって活躍します。

評価・
マスコミ
紹介等

- ・東海北陸厚生局主催「地域包括ケア市町村セミナー」で事例発表表(H29年1月)
- ・日本公衆衛生学会で当事業を発表/第74回シンポジウム方式による発表(H27年11月)
- ・第3回健康寿命をのばそう！アワード(H26年度)/「厚生労働大臣 優秀賞」受賞(介護予防・高齢者生活支援分野 自治体部門)
- ・財団法人総合研究所「事例を通じて我がまちの地域包括ケアを考えよう」で紹介(H25年度 厚生労働省補助事業)
- ・厚労省介護予防強化推進事業(H24・25年度)
- ・総務省定住自立圏地域医療連携推進調査事業(H24年度)

お問合せ

1 福祉部 長寿福祉課
電話 0594-86-7819
FAX 0594-86-7865
2 健康こども部 健康推進課
電話 0594-86-7824
FAX 0594-86-7864
(共通)住所 いなべ市北勢町阿下喜31



「元気づくり」は「地域づくり」！ いなべから全国へ

元気づくりシステム全国発信事業

事業開始年月日 平成24年2月

こんなところが
「いなべブランド」

進む高齢化。待ったなしの対策は国や全国の自治体における重要政策の一つです。「元気づくりシステム」は、医療費削減や、健康増進・介護予防などの公衆衛生の観点、さらには地域づくりの観点から、住民の力を活用した超高齢社会の切り札として、全国から注目を浴びています。厚生労働省の介護予防モデル事業や総務省の医療軽減研究事業に採択されるなど、「いなべモデル」の全国展開が加速しています。

事 業 概 要

○元気づくりシステム全国発信

「元気づくりシステム」は、健康を維持し、将来、介護状態にならないようストレッチ体操、ウォーキング、ボール運動などを取り入れた健康増進・介護予防運動を効率的・効果的に市民へ普及させる仕組みです。所定の研修を受けた市民「元気リーダー」が、地域へ戻り仲間を募って地域の集会所などでプログラムを展開します。また、定着に不可欠な元気リーダーのフォローアップを定期的実施しています。

この「元気づくりシステム」が全国の自治体などで導入され、日本国民のための「元気づくりシステム」へと展開されるよう、次のとおり産官学界で協働し全国発信・普及を進めています。



群馬県川場村で元気づくり体操を披露する元気リーダーら

1 ブラッシュアップ事業

「元気づくりシステム全国普及研究会」の開催を中心に

- ・自治体及び団体に「元気づくりシステム」の視察研修及び導入提案
- ・元気づくりシステム効果の検証、研究
- ・自治体間の住民交流事業の実践、研修

2 普及啓発事業

「元気な地域づくりを考える首長研究会」の開催を中心に

元気づくりシステム関連の全国的なシンポジウムや研究会の開催

- ・シンポジウム
 - 平成27年度 福島県伊達市・広島県北広島町で開催
 - 平成28年度 実施自治体4会場で事業説明会を開催
 - 平成29・30年度 実施自治体による日本公衆衛生学会での報告

3 その他PR事業など

- ・各省庁の情報収集とPR活動
- ・健康増進、介護予防、ツーリズムなどの関連企業の情報収集やPR活動
- ・地域包括ケアシステムでの元気づくりシステムの活用の実証(厚労省モデル事業 市町村介護予防強化推進事業の実施)
- ・元気づくりシステム実施自治体数2市4町(平成30年度)

評価・
マスコミ
紹介等

・総務省自治体大学校「H27年度課題研究用事例教材」として採用
 ・元気づくりシステム紹介、報告関連書籍
 「住民組織活動を通じたソーシャルキャピタルの醸成、活用の現状と課題」(日本公衆衛生協会)
 「事例を通じて、我がまの地域包括ケアを考えよう」(㈱日本研究所)

お問合せ

福祉部 長寿福祉課
 電話 0594-86-7819
 FAX 0594-86-7865
 住所 いなべ市北勢町阿下喜31

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

いなべブランド事業

いなべ市について



青川の清い流れと緑で… 元気注入!

青川峡キャンピングパーク事業

事業開始年月日 平成15年4月12日

こんなところが
“いなべブランド”

キャンプライフクリエイターが常駐し、ベテランキャンパーはもちろん、充実の設備で初心者や小さな子連れ家族にも優しい日本屈指の高規格オートキャンプ場です。平成30年春、新たに「CABIN'G サイト」がオープン。今まで以上に初級者やファミリーに利用しやすい施設が充実しました。団体向けのフィールドや、日帰り利用できる全天候型バーベキュー場などを備え、キャンプの楽しさとともに日常にアウトドアを取り入れたライフスタイルの提案をしています。

事業概要

まさに“おもてなし上手”なキャンプ場
スタッフのサポートと充実した設備で、初心者やファミリーも安心、快適に自然の中で楽しめます。

平成15年オープン、鈴鹿山脈の麓にある青川峡キャンピングパークは、西日本屈指の人気キャンプ場として全国にも広く知られています。炊事場やシャワー室、清潔なサニタリー、それぞれの好みに合わせて宿泊できる多彩なコテージサイト、キャンプスタイルに合わせたオートキャンプサイト、雨でも安心な炭火焼ハウス（全天候型バーベキュー施設）など施設が充実しています。新設のCABIN'G サイトは小屋とウッドデッキを組み合わせたサイトで、少ない準備で開放感のあふれるデッキライフを満喫できます。（総サイト区画42区画 建物類22棟）

夏休みには「マスのつかみ取り」を開催。また田植えから草取り、稲刈り、脱穀まで1年を通じて減農薬有機栽培の米作りを体験する「田んぼの楽校」や、季節に応じた自然体験プログラムのほか、キャンプフェスやクリスマスキャンプ、年越しキャンプなど一味違うこだわりのイベントを年間通して開催しています。

センターハウスにはキャンプギアを豊富に揃えたショップ、手ぶらでも道具が全てそろえられるレンタルルーム、浴場などが備わり、キャンプ初心者やこれから始める方を万全のサポートでお待ちしております。

「ツアー・オブ・ジャパン (TOJ) いなべステージ」の選手宿泊所や「日本のまんなか♥いなべ山女子フェスタ」の会場としていなべ市のかかわる事業とも連携し、県内外の来場者を迎え入れる拠点になっています。

アウトドア専門誌などにもよく取り上げられ、GWや夏休み、週末はもちろん、1年を通して県内外からの来場者で大変な賑わいぶりです。設備の充実、清潔さ、サイトの広さ、周辺の自然、スタッフの好感度、どれをとっても満足のいくキャンプ場です。

青川峡キャンピングパーク <http://www.aogawa.jp>

三重県いなべ市北勢町新町614

☎ 0594-72-8300



写真：平成30年に新たにオープンしたCABIN'G サイト

評価・
マスコミ
紹介等

- ・東海テレビ「ニュースone」(2019.2.21)
- ・他テレビ、アウトドア雑誌にて多数紹介。
- ・BE-PAL ほんとうに気持ちいいキャンプ場100選出(2016/2017/2019版)
- ・オートキャンプ専門誌“ガルヴィ”人気キャンプ場ランキング
- ・西日本部門2019年1位

お問合せ

農林商工部 商工観光課
電話 0594-86-7833
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



「いなべの里の蕎麦」全国への挑戦

いなべブランド創出事業

事業開始年月日 平成17年4月1日

こんなところが 「いなべブランド」

おいしいそばが育ついなべの自然環境下、88haの作付面積は三重県No.1。そのほとんどは、契約栽培により名古屋市の大規模な手打ちそば店や神戸の手打ちそばの名店で使われています。一般向けとしては「そば祭り」や「そば打ち体験講座」などを開催。交流人口を増やし、市内にはそばが特産品であることを誇りつつ地域おこしと位置づけて“そば打ち人口日本一”を目指しています。

事業概要

○作付面積県内一

目指せ！いなべのトップブランド

美味しいそばが育つ条件は、そばの花が咲く時期から実が大きくなるまでの気候が、冷涼で昼夜の気温差が大きいことです。10月の当市がこれにぴったりです。また、そばは水が大の苦手です。灌漑用の溜池に頼る水田農業を行う地域では、この水の不便さがそば栽培に好都合。また、サルの被害に苦しむ農家もそばなら被害を受けず安心して栽培できます。

市の重要な農産物と位置づけ、ブランド化に取り組んでいます。平成14年度に生産を開始。20年度には生産農家8軒が集まり、いなべ市そば生産部会を設立し、「いなべの栽培暦」と「出荷基準」を作り品質を高めています。

味と品質の高さから名古屋の有名店でも使用。そば粉だけでなく付加価値を付けた商品開発で、そばの生産量を拡大させ農家の所得向上につなげています。当市のトップブランドとして、「いなべの里の蕎麦」を全国へ発信しています。



○そばで地域おこし

そばには人と人のつながりを育む不思議な魅力があります。当市では、そば打ちを楽しむ人やこれを指導する人が続々と増えてきており、手打ち技術の研鑽を行っています。また、全国でも数少ないそば打ちの技術を評価する段位認定会を行い、そばを打つ人はいなべ詣を行い、三重のそばはいなべが産地と言われるよう努力しています。また、全国から名人を招き、そば打ち指導などで交流する「そば祭り」の開催、そば打ちをこよなく愛する「愛好会」の誕生など、そばで交流を広げようとする市民が増えていきます。親子行事や学校行事で育てたそばを児童が打つ体験プログラムは、次世代のそば打ち愛好者や「いなべの里の蕎麦」を誇りに思う人を育みます。合言葉は、“そば打ち人口日本一”「いなべブランド」を全国へ発信。



左上 全国優良生産表彰/右上 そば祭り そば打ち体験/左下 蕎麦打ち名人/右下 そば祭り 開会式

評価・ マスコミ 紹介等

- ・H29年度 全国素人そば打ち段位認定いなべ大会開催(後援:一般社団法人 全蕎協)
- ・H20年度 全国そば優良生産表彰受賞(財団法人 日本蕎麦協会)

お問合せ

農林商工部 獣害対策課
電話 0594-86-7832
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



三重県モデル いなべの集落農業

集落組織づくり推進支援事業

事業開始年月日 膝づめ座談会 平成16年1月1日/集落支援 平成17年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

「人・農地プラン」策定集落数県内1位(100集落)。農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加、若者の地域離れ農業離れという課題を解決するため、将来の集落農業のビジョンを示すいなべ市独自の集落営農の仕組みをつくり上げました。集落の合意により「集落協定書」又は「人・農地プラン」を締結し、集落ぐるみで農業を支援していく仕組みが、三重県の集落農業のモデルとなるなど、先駆的な当市独自の取り組みが国や県で高く評価されています。

事業概要

○課題解決に向け全集落と膝づめ座談会

いなべ市発足を機に、集落ぐるみでの農業を守り育てて行くため、市・JA・県の担当者が市内全ての集落に出向き、地域住民と膝を付き合わせ、各集落農業の現状と将来像を共有する「座談会」がスタートしました。農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加、次世代の地域離れ、農業離れなど、今直ぐ解決しなければならない課題がどの集落でも山積していました。

○集落協定書又は人・農地プランによる集落ぐるみ農業生産体制の確立

農地・水路・農道等の維持管理方法、農業生産活動、農地利用調整機能、担い手の明確化等を盛り込んだ「集落協定書」又は「人・農地プラン」を、集落農家の合意のもと締結することによる「集落ぐるみの農業生産体制」の確立を進めることになりました。集落の農業を集落みんなで力を合わせ守っていく仕組みです。この体制の確立を進めるため、平成17年度からいなべ市「集落組織づくり推進支援事業」がスタートしました。

○集落組織づくり推進支援事業

この事業は、様々なメニューの中から、その集落独自の活動に合った支援を市が行います。これにより、集落の創意工夫と独自性が発揮されます。水田が持つ多面的機能を維持し、集落農業を守り、農村の持つ多くの機能が着実に後世へと引き継がれて行くための取り組みを進めています。

○代表的な集落営農の取り組み

(農)丹生川中営農組合は昭和59年に設立。「自分たちの農地は自分たちで守ろう」を合言葉に、組合員が共同作業を行い、収穫した農産物は集落内で消費するなど集落ぐるみの営農組合を実現しています。体験教室の開催による保育園や小学生との交流や、高校生を含む若者の参加・定着など、集落内の調和がとれているのが特徴です。このような活動が評価され、第41回日本農業賞三重県表彰を受賞しました。



膝づめ座談会



田植え体験会



共同で草刈り作業



黄金色に輝いた稲穂の刈取り

評価・
マスコミ
紹介等

- ・農林水産省のホームページにモデル事業事例として掲載
- ・H27年度東海農政局農地中間管理事業表彰(事業地区部門、事業調整員部門)受賞
- ・関係団体等の視察研修受入多数

お問合せ

農林商工部 農林課
電話 0594-86-7831
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



農業公園発！ スローライフとロハスな暮らし

いなべ市農業公園事業

事業開始年月日 平成15年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

東海地区最大級の梅林公園と牡丹園！

地域の高齢者たちが知恵を出し合い、ゆっくり手作りで作り上げてきた農業公園。「見る、遊ぶ、食べる」といったスロースタイルや、四季を体感できる癒し空間です。2月末から3月にかけて開催される「梅まつり」は、80,000人もの入場者数を誇ります。

事業概要

いなべ市農業公園は、東海地区最大級で約100種類の梅の花がある梅林公園と、牡丹園がある農業公園、パークゴルフ場、農業公園レストラン「フラル」などがあるエコ福祉広場の2施設を合わせて農業公園と呼んでいます。

38ヘクタールの梅林公園では、3月に「梅まつり」、6月に「梅の実もぎとり体験」や「梅ジュースづくり体験」、7月下旬から8月中旬に「ブルーベリー狩り体験」を開催します。

18ヘクタールのエコ福祉広場では、4月下旬から5月上旬にかけて「ぼたんまつり」を開催し、また、子どもからお年寄りまで親子3世代で楽し

める子ども広場、パークゴルフ場、お食事は、安全安心な地元野菜を中心としたビュッフェスタイルのレストラン「フラル」もあり、四季折々を楽しめる公園です。

地域の高齢者たちが知恵を出し合い、ゆっくり手作りで作り上げてきた農業公園で「見る、遊ぶ、食べる」とスロースタイルを体験でき、癒し空間となっています。

いなべ市農業公園
三重県いなべ市藤原町 3071
☎ 0594-46-8377



梅まつり (3月)



ぼたんまつり (4月下旬~5月上旬)



梅の実もぎとり体験 (6月下旬)

ブルーベリー狩り体験
(7月下旬~8月中旬)

パークゴルフ場



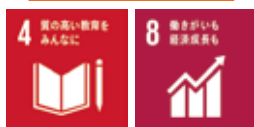
農業公園レストラン「フラル」

評価・
マスコミ
紹介等

- ・NHK,CBC他3社で報道(H31年3月)
- ・オーライ!ニッポン大賞審査委員長賞受賞(H22年)
- ・花の観光地づくり大賞審査委員特別賞受賞(H21年)
- ・立ち上がる農山漁村受賞(H19年)

お問合せ

農林商工部 商工観光課
電話 0594-86-7833
FAX 0594-86-7869
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



世界のプロサイクリストが 集うまち いなべ

ツアー・オブ・ジャパン (TOJ) いなべステージ

事業開始年月日 平成27年5月19日

こんなところが
“いなべブランド”

世界最高峰の自転車ロードレース、ツール・ド・フランスの出場チームも参加する、国内最高峰のステージレース、ツアー・オブ・ジャパン。いなべ市では地域の団体や自治会と協力して実行委員会を結成し、2015年から開催しています。2019年の観客数は20,000人を記録。

豊かな自然を活かした起伏に富んだコース設定で、世界に「INABE」の名を届けています。

事業概要

現在、日本国内には7つのUCI（国際自転車競技連合）公認の国際ロードレースがあります。

このなかでもTOJは、8日間8ステージという最大の大会規模を誇り、全体を通じた観客数が35万人を超える国内最高峰の国際自転車ロードレースイベントです。

「TOJ いなべステージ」は、いなべ市の自然豊かで起伏に富んだ道路環境を利用したコースを設定しています。阿下喜温泉前をパレード走行しながら、周回コース（1周14.8km、8周）へと進み、最大勾配17%の激坂を含む山岳ポイントやテクニカルな下り、ワインディングなど序盤から難所が続き、フィニッシュ前1km付近からの通称「イナベルグ」と呼ばれる道幅の狭い急坂区間もあり、展開の読めない

難コースとして知られています。

国際大会の開催を契機に、いなべ市を訪れるサイクリストも増加し、「自転車のまち いなべ」としてのブランド作りの大きな役割を果たしています。

また、大会の開催前には、地域の小学校で交通安全教室（ウィーラスクール）を実施し、「自転車での交通ルールの遵守」について指導するなど地域貢献の一端を担っています。

今後は、2021年の三重とこわか国体の自転車ロードレース会場に決定したことにより、さらなる「自転車の聖地」としての魅力づくりを行います。

いなべステージ公式サイト
<http://www.inabe-stage.jp>



評価・
マスコミ
紹介等

- ・各社新聞報道（中日新聞・朝日新聞など）（H31年1月～R1年5月）
- ・TV報道（H31年2月～R1年6月）
- ・BS日テレ ツアー・オブ・ジャパン総集編（R1年6月29日）等

お問合せ

教育委員会事務局 国体推進室
電話 0594-86-7847
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



どの子どもわかり 参加できる授業づくり

山郷小学校特別支援教育

事業開始年月日 平成16年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

「特別」が見えない「特別支援教育」で「どの子どもわかる・参加できる」授業づくりの実践、「学習の約束を徹底」「教師のわかりやすい話し方」「子どもが退屈しない授業」を合言葉に進める授業改革の取り組みが、NHKのクローズアップ現代で取り上げられるなど、全国から高い評価を受けています。

事業概要

本校が目指す特別支援教育は、「どの子どもわかる・参加できる」授業を目指し、「学習で守るべき約束を子どもたちに徹底し」「教師が的確な話し方を心がけ」「子どもが退屈しない」を「授業づくり3つの観点」として、取組を進めています。



笑顔あふれる楽しい授業

守り、タイミングよく次の指示を出していきます。そうすることで「今、何をすべきかが」わかる授業を目指します。

○その3「リズムとテンポ」

子どもが退屈しないよう授業に「流れ」を作ります。テンポよく進むところと、じっくりと考えるところをつくり、メリハリのある授業を目指します。また、子どもの理解を助けるための視覚的支援となる図・絵・写真等も活用します。

この3原則のほかにも様々な支援を考え、授業に取り入れていきます。いわゆる「ユニバーサルデザイン」の授業で、「どの子どもわかる・参加できる」授業づくりを目指します。

○その1「学習規律の定着」

みんなで学習していく時に守るべき「10の約束」を明示し、どの子ども安心して学習に集中できる環境をつくります。

○その2「わかる発問、わかる指示」

教師の指示が明確に子どもに伝わるように「教師の話し方」「指示の出し方」に気をつけます。指示を出したら、子どもがそれを実行したかどうかを見



すっきりした机上で背筋ピン・腕もピン！

評価・
マスコミ
紹介等

- ・「指導と評価（図書文化：H24年4月発行）」をはじめ、多数の教育図書に実践が掲載。
- ・山郷小学校特別支援教育研究報告会（H20、22年度）
- ・三重県教育長学校訪問（H22年度）
- ・NHK「クローズアップ現代」全国放送（H20年度）

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



地域と共に育つ学校

石榑小学校コミュニティスクール事業

事業開始年月日 平成18年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

児童や学校を取巻く問題を地域の課題として捉え、共に解決するため、200人も地域住民が学校運営や学校支援、学校と地域との交流事業に関わっています。学校を地域コミュニティの拠点として位置づけ、地域住民が主体となって日常的に交流が行われています。子どもや学校の課題にとどまらず、地域課題を解決するための協働の場として学校づくり・人づくり・地域づくりに取り組んでいます。

事業概要

- **地域が学校運営に参加しています**
 - ・市の指定を受けた学校運営協議会として、学校運営方針の協議と評価
 - ・地域と学校の連携を高めるための調査研究
- **地域が学校を支援しています**
 - ・校舎校地の清掃、花木の管理
 - ・地域図書館として、学校の図書室の管理運営、読み聞かせの実施
 - ・生花、料理、手工芸、学習など住民が得意分野で先生となり、児童に教える「わくわくスクール」
 - ・総合学習のゲストティーチャー（搾乳、お茶摘み、米作りなど）
- **地域が児童の安全を守っています**
 - ・「見守り隊」による登下校の同行、出迎え
 - ・「子どもを守る家」訪問の隔年実施
 - ・「防犯教室」
- **地域のことを誇りに思えるようなイベントを学校と共同開催しています**
 - ・石榑の里まつり（毎年11月実施）
 - ・石榑トンネル開通を記念したトンネル見学遠足（平成23年3月実施）
 - ・校歌にも歌われている地域の山「竜ヶ岳」登山（毎年2回実施）
- **地域が学校との交流の取組を発信しています**
 - ・広報誌の作成、校区全戸配布
 - ・地域ホームページの開設
- **地域資源等を活用し交流を充実させています**
 - ・国道の草刈を受託し交流事業の費用確保
 - ・町内企業による社会貢献活動との連携（海外支援衣料回収等）
 - ・名古屋大学院との連携と協働（石榑の里まつり、地域アンケート）



校舎環境整備



地域産業のお茶を学ぶ



わくわくスクールのひとつ「花あそび会」



地域住民の1/4が集う石榑の里まつり

評価・マスコミ紹介等

- ・総務省の定住自立圏等推進調査事業「学校を拠点とした地域づくり推進事業」採択（H25年）
- ・未来を強くする子育てプロジェクト「未来大賞」「文部科学大臣賞」受賞（H24年）
- ・地域による学校支援活動推進にかかる文部科学大臣表彰（H24年）
- ・子どもたちの“こころを育む活動”「全国大賞」受賞（H24年）
- ・中部の未来創造大賞「大賞」受賞（H23年）
- ・あしたのまち・くらしづくり活動賞（H23年）

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



ふるさとの川にすむネコギギを守ろう

員弁川水系ネコギギ保護増殖事業

事業開始年月日 平成18年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

国指定天然記念物ネコギギと自然豊かな河川の再生に向けて、「専門家」「行政」「地域住民」が、交流し合意形成を図りながら、次の世代につながる川づくりと地域づくりの取り組みを継続的に進めることを目指した先駆的な取り組みです。市内河川で保護したネコギギを家系管理しながら水族館等で繁殖しています。飼育下で増殖したネコギギを自然の川へ放流しています。その放流したネコギギが川で繁殖しました。

事業概要

○清流の象徴ネコギギの保護

ネコギギ（ナマズ目ギギ科）は、三重県、岐阜県、愛知県の伊勢湾周辺域河川にのみ分布する日本固有の純淡水魚で、清流の象徴（シンボル）といわれています。

1990年以降の調査で員弁川水系ネコギギの生息は危機的な状況になっていることがわかりました。そこで、ネコギギ保護の活動を行っています。

○員弁川水系ネコギギ保護増殖事業

- 1 ネコギギの生息状況調査
- 2 員弁川水系ネコギギの飼育増殖
- 3 生息環境調査及び環境改善
- 4 ネコギギの試験放流計画及び実施

○地域に広がる保護活動

ネコギギが生息する地域の小学校が取り入れる川の環境学習をテーマとした総合学習で、ネコギギについて知る授業を取り入れたり、PTAが主体となりネコギギの勉強会や川に生息する魚類の親子観察会などを開催したりして、地域ぐるみの活動が芽生え始めています。

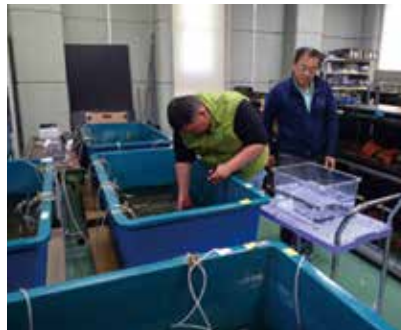
いなべ市HP

<http://www.city.inabe.mie.jp/kyoiku/nekogigi/index.html>

(ネコギギ保護のための活動)



川で自然繁殖したネコギギの稚魚



ネコギギ飼育作業の様子



十社小学校 ふるさとの川学習

評価・
マスコミ
紹介等

- ・読売新聞(三重)(R元年5月4日)
- ・朝日新聞(三重)(H30年4月20日)
- ・毎日新聞(三重)(H30年3月30日)
- ・読売新聞(三重北勢)(H30年3月29日)
- ・中日新聞(三重)(H30年3月24日)
- ・書籍コラム掲載「淡水魚保全の挑戦」日本魚類学会自然保護委員会(編)(H28年12月14日)
- ・ミヤコタゴ保全シンポジウム 千葉県立中央博物館(H28年2月20日)
- ・富山県水見市イタセンバラ放流式典(H27年10月3日)
- ・湧水保全フォーラム全国大会inおがき(H26年10月27日)

お問合せ

教育委員会事務局 生涯学習課
電話 0594-86-7846
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



プールで育む子どもの元気 ～安全と笑顔～

海洋センタープール事業

事業開始年月日 平成23年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

保育園児を対象にした「アクアリズム運動教室」は、海の無いいなべ市で水に親しむ機会を提供し、体力向上を図っています。小学生を対象にした「水辺の安全教室」は、学校と協力して自分の命は自分で守るという自助意識の向上を図っています。B&G財団の海洋センターの管理運営全般評価で7年連続最高位の特Aを獲得しました。平成25年度新設の「全国指導者会会長賞」（地域指導者会の運営が、他の指導者会の模範となると認められたときや、特に優れた活動などと認められたとき、表彰する）を受賞しています。

事業概要



教室の会場
「員弁運動公園海洋センタープール」



動物ものまね体操で準備体操



アクアスタディ（ビート板）



宝物拾い

研修、訓練を受けてインストラクターとなった市の職員が、各教室を開いています。

○アクアリズム運動教室

子どもたちの体力が低下傾向にあります。そこで、保育園児（年中、年長）を対象に、「アクアリズム運動教室」を開催しています。プールでのあそびやリズム運動などを通して、水に親しみ楽しみながら、体力の向上を図ります。さらに、協調性や思いやり、順番を守るなどの規律性も育みます。

○水辺の安全教室

水の事故をゼロにするため、職員（インストラクター）が学校へ出向き、「水辺の安全教室」を開催しています。

“水に近づかない”ことを教えるのではありません。水の安全について正しい知識を得て、水辺での活動が楽しいものになるため、いざという時に誰にでもできる対応を学習します。

指導内容は、着衣泳、ペットボトルなど身近なものでの浮遊体験、ライフジャケット浮遊体験などです。



背浮きの練習



水辺の安全紙芝居



ペットボトル浮遊体験



落水体験
(落ちたらすぐ背浮きの練習)

評価・
マスコミ
紹介等

- ・NHK「ほっとイブニングみえ」で水辺の安全教室紹介(H26年)
- ・B&G財団 特A評価(H22年～H28年)
- ・B&G財団 平成25年度全国指導者会会長賞受賞

お問合せ

教育委員会事務局 生涯学習課
電話 0594-86-7846
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



美しい水環境の創出

いなべ市公共下水道事業・農業集落排水事業・合併浄化槽設置整備事業

事業開始年月日 いなべ市公共下水道事業 平成7年4月1日 農業集落排水事業 平成3年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

汚水処理人口普及率は、県内の市で第1位、三重県の平均 84.4%を大きく上回る 99.5%と非常に高い普及率を誇ります。市民の皆様のご理解とご協力により、早期に整備を行うことができました。高い普及率が示すとおり、快適で衛生的な生活環境が整備され、河川など自然環境の保全や住みやすく自然豊かなまちづくりに大きく貢献しています。

事業概要

○ 広域における生活排水処理 3つの区域でカバー

いなべ市は、公共下水道区域と農業集落排水区域及びそれ以外の区域に分かれて生活排水処理を行っています。公共下水道区域は員弁町・大安町・北勢町内の阿下喜地区・治田地区・山郷地区の一部と藤原町内の員弁川右岸区域（東藤原地区・西藤原地区・白瀬地区・中里地区の一部）を桑名市・四日市市など北勢7市町が運営している北勢沿岸流域下水道として統合汚水処理を行っています。（供用開始は平成7年4月から）

また、農業集落排水区域は北勢町内の十社地区・山郷地区の一部と藤原町内の員弁川左岸区域（立田地区・中里地区の一部）に11箇所の処理施設があ

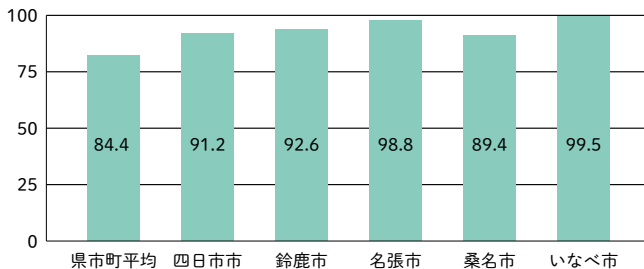
り、汚水処理を行なっています。（供用開始は平成3年4月から）それ以外の区域は、合併浄化槽による汚水処理を行なっています。

○ 高普及率 自然豊かなまちづくりに貢献

これらの整備を行うことにより、蛍の息音が非常に多く確認できるようになりました。（学校などで様々な環境教育を実践している）

平成16年度と22年度に行なわれた住民アンケート評価で、まちづくりの中で良くなったものを尋ねたところ、下水道の整備が一番高い結果となりました。また、いなべ市の誇り・魅力の項目では「自然環境」が高く、員弁川の川上に生活を営むものとして環境への意識の表れと考えられます。

汚水処理人口普及率（%）



三重県：生活排水処理施設整備率一覧より（平成30年3月31日現在）

評価・
マスコミ
紹介等

H16、22年度に、いなべ市が実施した「住民アンケート」で、「まちづくりの中で良くなったもの」の項目で下水道整備が一番高い評価を得ました。

お問合せ

水道部 下水道課
電話 0594-72-3515
FAX 0594-72-3748
住所 いなべ市北勢町阿下喜2633



地域のHERO消防団

いなべ市消防団

事業開始年月日 平成22年7月25日

こんなところが
“いなべブランド”

常に新しい団員が加入し活力溢れる「いなべ市消防団」。地元企業と地域が人材発掘に協力し、地域を守る消防団を支えています。火災だけでなく土砂災害、山岳救助、市民への防災訓練や啓発でも活躍。地道な訓練と高い統率力により三重県操法大会で優勝し全国操法大会に出場しました。また、平成24年9月の土石流災害における住民避難の活動等が認められ、国土交通大臣表彰を受けました。

事業概要

消防団は消防署と異なり、地域住民が他に仕事をもちながら「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づき、地域住民の生命と財産を守るために活動しています。

災害が発生した場合は、消防職員と一体となって迅速に消火活動を行います。火災出動のみならず、土砂災害、山岳救助、行方不明者の捜索などの事案にも出動し、市民の安心と安全を守るために昼夜問わず活動しています。いつ起きるかわからない災害に備え日々訓練をし、地域の消防力や防災力を向上させるとともに、市民への防災訓練や啓発を実施し、地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たしています。

消防団は地域にとって欠かせない存在であり地域の要です。全国的に適正な消防団員の確保が課題となっていますが、当市では若い団員が常に入団し団員数が確保されています。消防団員のサラリーマン化が進み、ほとんどの団員は企業に勤めながら活動をしています。家庭、企業、地域の理解やサポートがなければ出来るものではありません。家庭、地域、企業が協力し地域を守る消防団を支えています。

2年に一度、消防の操作方法の正確さと速さを競う操法大会が開催されます。平成22年7月の三重県大会では勤め先企業や家庭の理解と協力のもと、厳しい訓練にも耐え、みごとポンプ車の部で優勝し、全国消防操法大会の出場を果たしました。

その年の11月、愛知県蒲郡市で行われた第22回全国消防操法大会へ三重県代表として出場。いなべ市消防団の名を全国に轟かせました。

また、平成24年7月に開催された三重県大会では小型ポンプの部で準優勝に輝きました。



全国操法大会で健闘するいなべ市消防団

評価・
マスコミ
紹介等

- ・国土交通大臣表彰（全国9団体、2個人）（H25年）
- ・三重県操法大会小型ポンプ部門 準優勝（H24年）
- ・三重県操法大会ポンプ車部門 優勝（H22年）

お問合せ

総務部 防災課

電話 0594-86-7746

FAX 0594-86-7859

住所 いなべ市北勢町阿下喜31



納税意識の高いまち、いなべ

市税収納事業

事業開始年月日 平成16年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

市民1人ひとりが、社会の一員として福祉、教育、防災施設等の整った住み易いまち、安心できるまちづくりに深い理解があり、まじめな市民が多いことがいなべ市の長です。市の予算の根幹を成す市税は、平成15年12月の合併以降、県内の市(14市)の中で収納率は、常に上位を占めています。

事業概要

- 合併以降、毎年三重県内の市(14市)の中で市税の収納率は、常に上位を占めています。
(収納率：納付していただくべき課税額に対し、納付された額の割合)
- 納税の方法が、口座振替納税、インターネットを利用したクレジット納税、コンビニ納税と、多彩さも県下一です。
- 毎年市内の小学校に出向いて租税教室を実施し、税金の使われ方など税に対する理解を深めていただき、将来の納税意識を醸成しています。
- 事情により納められない方には、分割納付など、親切・丁寧な納税相談を行っています。
- 納付されない方に対しては、債権(売掛金、預貯金、給与など)や不動産(土地や建物)、無体財産(電話加入権や出資金)の差押えなど、法律に基づいた厳格な差押えを実施しています。

【過去5年間の収納率の推移】

単位：%

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
いなべ市	97.2	97.7	97.8	97.8	97.6

お問合せ

総務部 納税課
電話 0594-86-7793
FAX 0594-86-7861
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



リンクでつなげよう市民の輪

いなべ市情報誌 Link[リンク]

事業開始年月日 平成15年12月1日

こんなところが
“いなべブランド”

思わず手に取ってしまう「表紙」デザイン、次のページをめくらずにはいられない、最後まで読ませてしまう「特集」、必要な情報をわかりやすく提供する「Pick Up」と「くらしの情報」コーナーなど、“伝わる広報”を目指しています。これらが評価され、平成31年全国広報コンクールでは、広報写真部門（組み写真部）で入選、平成30年度三重県広報コンクールでは広報写真（組み写真部）で特選、広報紙部門（市部）、写真部門（1枚写真）、映像部門で入選に選ばれました。

事業概要

いなべ市の広報誌は、平成15年12月の合併以来、きずな・輪・つながりを意味した「リンク」という愛称で、毎月1回、約1.3万部の発行を続けてきました。平成28年6月号で第150号を迎え、積み上げるとその高さは東京スカイツリーの2倍を超えます。

市制10周年を迎えた平成25年、誌面をリニューアル。それまで業者に委ねてきた編集作業を市の職員

が行うようにし、企画から取材、編集まで対応しています。

また、インターネットでもご覧いただけるよう、ホームページに掲載しています。



表紙



特集



PickUP



いきいき！マイタウン



さんぽ道

評価・
マスコミ
紹介等

・全国広報コンクール
H31年広報写真部門（組み写真）入選
H30年広報写真部門（一枚写真）入選 3席
H29年広報写真部門（一枚写真）入選

・三重県広報コンクール

	広報紙	1枚写真	組み写真	映像
H30年度	入選	入選	特選	入選
H29年度	特選		特選	特選
H28年度		特選	特選	
H27年度	特選			特選
H26年度	入選			入選
H25年度	特選			
H22年度		入選	入選	

お問合せ

企画部 広報秘書課
電話 0594-86-7740
FAX 0594-86-7857
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



YouTube でシティプロモーション

いなべ市ホームページ 映像配信

事業開始年月日 平成19年10月1日

こんなところが
“いなべブランド”

無料で動画投稿ができるサイト「YouTube」を活用した映像配信。YouTube に投稿した動画やタイトル、解説文などを市ホームページに表示します。ページの管理に手間をかけることなく、世界に向け市の魅力を発信できます。この YouTube を活用した映像配信の取り組みは全国で2番目、自治体ホームページとの体系的な連携は全国初の取り組みとして NHK「おはよう日本」でも紹介されたこともあります。

事業概要

いなべ市のホームページでは、YouTube に投稿した最新映像をはじめ、これまで投稿された映像のキャプチャ画像がズラリと表示されます。

各動画には、新着情報のほか、「いなべ10」、「ふ

れあいネット in いなべ」「東近江市スマイル観光」「PICK UP! INABE GUIDE」などのカテゴリに分け、豊富な動画を楽しむことができます。



いなべ市ホームページ



YouTube サイトのいなべ市チャンネル

評価・
マスコミ
紹介等

- ・H30年全国広報コンクール映像部門 入選
- ・H29年全国広報コンクール映像部門 入選
- ・H29年度三重県広報コンクール映像部門 特選
- ・H28年度三重県広報コンクール映像部門 特選
- ・H27年度三重県広報コンクール映像部門 特選
- ・H26年度三重県広報コンクール映像部門 入選
- ・H23年度三重県広報コンクール映像部門 入選
- ・H21年度三重県広報コンクール映像部門 特選

お問合せ

企画部 広報秘書課
電話 0594-86-7740
FAX 0594-86-7857
住所 いなべ市北勢町阿下喜31

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

いなべブランド事業

いなべ市について



先進的文書管理 「ファイリングシステム」

文書管理適正化事業

事業開始年月日 平成17年3月1日

こんなところが
「いなべブランド」

「ファイリングシステム」は個別フォルダとキャビネットを活用した文書管理システムで、一般的な簿冊によるものと比較して、検索性・セキュリティに非常に優れたシステムです。この「ファイリングシステム」は、平成23年4月に施行された公文書管理法に基づくガイドラインに則したもので、県内の自治体では、平成16年度にいなべ市が初めて導入しました。また平成30年2月には、文書管理ソフトを導入しました。これにより文書の発生から廃棄まで一元的に管理を行えるようになりました。

事業概要

- ① 「ファイリングシステム」は課で文書を集中管理します。文書は、すべて個別フォルダに入れられ、課のキャビネットに階層化されて保管されます。
- ② 文書管理ソフトを使用し、文書の発生から、保管、保存、廃棄までを記録する「ファイル基準表」を年度ごとに作成し、過去の文書であっても、誰でも、その所在がすぐに分かります。
- ③ キャビネットの上段に入れられた文書は、翌年度には下段に、翌々年度には書庫に整理されながら移動します。
- ④ 「ファイリングシステム」では事務用品も一括管理するため、執務環境も改善されました。毎日の終業時にはキャビネットを施錠して、情報漏えいの防止にも努めています。

【導入前】



書類があちこちに置かれています。



簿冊に綴じ込まれた文書は、担当者でも探すのがたいへんでした。

【導入後】



担当者でなくても、必要な文書をキャビネットからすぐ探し出せます。



文書管理ソフトで文書の発生から廃棄まで正確に管理できます。



2年以上前の書類も書庫で整理して保存されているため、すぐに取り出せます。



スッキリとした執務環境で、仕事の効率も上がります。

評価・
マスコミ
紹介等

・行政視察受入
島根県安来市 (H25年)
高知県四万十町 (H24年)
三重県鳥羽市 (H24年)

お問合せ

企画部 法務課
電話 0594-86-7743
FAX 0594-86-7858
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



学校ICT活用事業

学校ICT活用事業

事業開始年月日 平成28年4月1日

こんなところが
“いなべブランド”

電子黒板やタブレット端末などのICT機器とICT機器活用支援員の配置の両面で教育環境整備を進めています。市内小学校では、ICT機器を用いた授業改善、基礎学力の向上に取り組んでいます。

※ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）

※ICT機器活用支援員（教材作成、授業での操作、校内研修会などの支援を行う。）

事業概要

小学校全クラスに電子黒板などを整備すると共に、5、6年生には1人に1台、1～4年生共用で1人に1台のタブレット端末を配備し、児童にとって興味をもって参加しやすい授業づくりに取り組んでいます。

○ICTで仲間力UP！

自分の考えを電子黒板やタブレット端末に映し、指し示しながら伝え合うことができます。また、タブレット端末と電子黒板を接続すれば、全員の考えを提示することもできます。

○ICTで一人力UP！

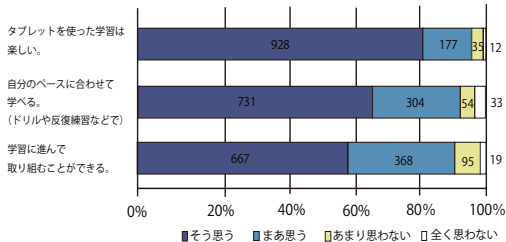
タブレット端末のアプリを使い、算数や漢字などの個別学習に取り組んでいます。学習した子ども

達からは、「苦手だった算数ができるようになった」「漢字を覚えやすくなった」といった感想が聞かれます。また、先生用ページでは、個別学習の進捗やつまずきを知ることができます。

○ICTの授業をサポート！

先生や子ども達がICTを活用した授業ができるように、授業での操作サポートなどをICT機器活用支援員が行っています。

平成30年度児童タブレットアンケート結果



①タブレットで伝え合い



②電子黒板とタブレットで学び合い



③タブレットで個別学習



④ICT機器活用支援員がサポート

評価・
マスコミ
紹介等

- ・平成30年度文部科学大臣優秀教職員表彰受賞 (H31.1.15)
- ・教育家庭新聞にipad整備の記事掲載 (H31.3.4)
- ・ベネッセ教育総合研究所「VIEW21」にいなべ市ICT教育掲載(H31.6.25)

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31



笑顔と感謝が奏でるメロディー 全国初! 楽器を寄附するふるさと納税

楽器寄附ふるさと納税事業

事業開始年月日 2018年10月10日

こんなところが
“いなべブランド”

返礼品で注目されるふるさと納税に対して、そもそも寄附とは何かを問いかける全国初の事例。楽器不足で困る中学校・高校と、眠ったまま使われていない楽器を持つ人たちを、ふるさと納税が結びつけます。

返礼品は子どもたちの喜ぶ声と、寄附楽器で演奏するコンサートの招待状。いなべ発案の心温まるふるさと納税が全国を席卷しています。

事 業 概 要

「楽器寄附ふるさと納税」は、“休眠楽器”の寄附を受け入れる、全国初の取り組みです。

この制度では、全国に眠る使われなくなった楽器を寄附いただき、楽器が不足しているいなべ市の中学校や高校へ届けます。寄附を希望する人が、市の市の専用サイトから申し込むと、市と連携するマーケットエンタープライズが買取査定を行い、査定額に納得していただけた場合、寄附が成立します。楽器は市へ物納され、寄附者は買取額に応じて、税金控除が受けられます。

一般的なふるさと納税と違って、返礼品はありません。子ども達からお礼の手紙をお送りすると、コンサートへの招待を行っています。また「感謝の声」としてウェブでも画像を添えて紹介しています。

楽器が足りないという、市内の学校の困りごとを解決するだけでなく、自分や家族が大事にしてきた楽器を、想いと共に、次の世代につなげるという新しい寄附文化が醸成されつつあります。2019年2月末現在、47の楽器が大安中学校、いなべ総合学園高等学校に届けられました。

楽器寄附ふるさと納税専用 Web サイト



寄附された楽器と学校の生徒たち



評価・
マスコミ
紹介等

伊勢新聞、中日新聞、朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞、毎日新聞、日本教育新聞、自治日報、月刊ガバナンス、週刊東洋経済、その他テレビ局、サイト記事等多数

お問合せ

1 企画部 政策課
電話 0594-86-7741
FAX 0594-86-7858
2 教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
(共通)住所 いなべ市北勢町阿下喜31

THIS IS INABE BRAND

終了した
いなべブランド
事業

みんなでサポート「働く笑顔」

障がい者就労支援事業

事業開始年月日

平成20年5月30日～平成27年3月31日

※障がい者就労支援は平成28年度に就労支援事業所が出来たことから移管しました。
相談業務は「障がい者相談支援センターそういん」に委託しています。

こんなところが “いなべブランド”

働く意欲があってもなかなか就労に結びつかない障がい者の方を支援するため、障がいの特性や本人の希望に合わせて、仕事を体験する職場実習を行います。職場実習を通して知ることができた特性（長所・短所など）を記載した資料（アビレコ Ability Challenge Record：技能開発履歴）を作成し活用することで、会社や事業所などでの支援を受けやすくします。特徴的、先進的な事例として総務省「市町村の活性化新規施策事例」に取り上げられました。

事 業 概 要

○ 事業の趣旨及び目的

一般就労が難しいとされる障がい者の就労を支援するため、仕事を体験する機会（職場実習の場）を確保し、就職、復職、職場適応に向けた支援を行います。職場実習をとおして、さまざまな仕事の経験や働く準備をすることで、社会的自立を目指すとともに、地域で豊かにいきいきとした生活を送るための支援をします。

○ こんな支援をします

就労したいという気持ちを尊重し、職場実習を重ねることで、次のような支援を行います。

- ① 人間関係、職場内のコミュニケーション（挨拶、報告、職場内マナー等）のとり方を支援します。
- ② 労働習慣（毎日続けて働くこと、職場のルールを守ること、生活のリズムをつくること）を身につける支援をします。
- ③ 仕事をする力（作業の内容の理解、作業をスムーズに行う力の向上、作業する態度を学ぶこと）を身につける支援をします。
- ④ 作業の適性やできることの把握をして、企業や障がい福祉サービスを提供する支援者などから支援を受けやすくするための評価表をお渡しします。

○ 利用開始からの流れ

- ①施設研修
いなべ市社会福祉協議会の施設で約1か月間研修を行い、障がい特性、希望などをもとに職場実習先を検討
- ②職場実習
数か所の職場実習先で、最大6か月間の職場実習
- ③実習結果報告
実習結果を伝え、評価表を渡す。
- ④就職活動
評価表を活用し、ハローワーク、障害者就業・生活支援センターなどの専門機関の支援を受けて就職先をさがします。



職場実習の様子

評価・
マスコミ
紹介等

・市町村の活性化新規施策200事例
総務省監修（H20年度）で紹介

お問合せ

福祉部 社会福祉課
電話 0594-86-7816
FAX 0594-86-7865
住所 いなべ市北勢町阿下喜31

ホタルの里づくり

立田小学校ホタルの里づくり事業

事業開始年月日 平成5年4月1日
※立田小学校は小学校の統廃合により、平成29年3月31日に閉校しました。

こんなところが
「いなべブランド」

ホタルの繁殖、放流によるホタルの里づくりに取り組み 23 年。屋外飼育にも成功し毎年ピオトープや校庭を乱舞するホタルの姿が見られます。児童と地域が共に学ぶ「春の遊学祭」「夏のホタルの会」「秋の山の神」など、四季折々の活動による里づくりを行っています。ホタルの里づくりの取り組みは、教育や環境関連団体から高く評価され多くの表彰を受けています。

事業概要

郷土唱歌『立田村の歌』に「員辨郡の西北にめぐる熊坂烏帽子岳、白雲檐に近くして山川清き立田村」と謳われるように、立田小学校ではあふれる郷土愛と豊かな自然を活用して地域に根ざした屋根のない学校づくりを進めています。

この取り組みの中心活動である『ホタルの里づくり』の取り組みはかつてこの地域に満天を染めるほどに飛翔したホタルを題材に、生息する揖斐川の源流の一つである赤尾川や地域の用水やピオトープの環境を比較研究し、環境問題について探求する糸口にしてきました。合わせて、ホタルの繁殖・放流によるホタルの里づくりにも取り組んできました。

これらの活動は児童の主体的な継続的な探求活動であり、毎年6月の研究発表会「ホタルの会」とそれに続くホタルボランティア活動により成果の報告を行っています。ホタルの里づくりの取り組みは多くの環境教育賞を受賞し、現在も、ホタルの育つピオトープ『天の川』で飼育観察を継続しています。

「ホタルの里づくり」の取り組みは児童の主体的な探求活動として歳月を重ね、ホタルの育つ地域の

環境に学び、繁殖を試み、毎年、校庭を舞うホタルの姿があります。

ピオトープ「立田の天の川」も完成し、屋外飼育にも成功しました。4月の上陸、6月の飛翔とホタルの幻想的な姿と合わせて、3月のホタルの洗い出し・放流、6月のホタルの会・ホタルボランティアなど季節ごとにご案内しています。

また、山村留学活動の一環として「川下り」「龍王登山ともちつき」「山の神」等地域とともに取り組んでいます。



「ホタルの会」での研究発表（6月）



ホタルの幼虫の放流（3月）

評価・
マスコミ
紹介等

- ・文部科学省：優れた『地域による学校支援活動』文部科学大臣表彰（H25年度）
- ・学生協：「わたしたちの環境活動」研究論文 最優秀賞（H17年度）
- ・環境省：環境保全功労者等環境大臣賞受賞（H16年度）
- ・第2回ソニー子ども科学教育プログラム努力校（H15年度）
- ・朝日新聞社：朝日のびのび教育賞（H13年度）

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

いなべブランド
終了した
事業

いなべ市について

学校と地域が取り組む花壇づくり

中里小学校花づくり事業

事業開始年月日 昭和46年4月1日

※中里小学校は小学校の統廃合により、平成29年3月31日に閉校しました。

こんなところが
「いなべブランド」

花壇づくりに取り組んで約40年。「花の中里」の取り組みは、花を通じた地域との交流へと広がっています。花の作業を地域の方と一緒にしたり、育てた苗を地域の方に配ったり、町内の施設に花を飾ってもらったりしています。伝統の花づくりは、地域の、そしていなべの誇りです。

事業概要

FBC（フラワーブラボーコンクール）に参加して約40年以上になります。これまでの先輩方のご尽力の上に立って、今も継続して取り組みを進めています。中里の花づくりは、5年生の児童が中心となって活動し、発送された種のみを使用して、コンクールに臨むものです。

児童がテーマに合ったデザインを考え、指定花壇に配置・定植します。毎日栽培日記を書き、水やりも交代で行い、春花壇・秋花壇と一年中世話をします。このFBCは、立派な花壇を作るだけでなく、他学年の花壇作り、教科との関連、地域との連携も評価の対象となります。中里小では5年生が育てた苗を使って、全学年が花壇づくりに取り組んだり、保護者や地域の方々をはじめ老人ホーム等へも苗や花を届けたりしています。

このように学校全体で花づくりに取り組み、花を通して地域との交流を深めています。

予備審査を合格すると、さらに本審査が行われ、花壇の評価が決定します。近年県下で連続ベスト5にはいっており、児童・教師の頑張り、そして地域の方々を巻き込んだ取組が評価されたのだと思います。

ます。素人の集団ですが、みんなが少しでも良い花壇を作ろうと奮起している証拠です。ライトアップも春・秋の2回実施し、多くの参観者を得ています。



平成27年度 秋花壇の前で



種まきから始めます
(5年の保護者・学援隊のみなさんと)

評価・
マスコミ
紹介等

FBC(フラワーブラボーコンクール)中日新聞社・県教育委員会共催
 ・三重テレビ賞(H27年10月)
 ・三重県教育委員会賞(H26年10月)
 ・大賞(H25年10月)
 ・中日新聞社賞(H25年4月、H24年10月、H23年5月、H22年10月)
 ・三重県知事賞(H24年4月)
 ・三重県教育委員会賞(H23年10月)
 ・内閣総理大臣賞(H22年5月)

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
 電話 0594-86-7844
 FAX 0594-86-7871
 住所 いなべ市北勢町阿下喜31

できることから始める環境教育

員弁中学校環境教育推進事業

事業開始年月日 平成18年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

まだ全国において「緑のカーテン」が広く実践される以前（2006年）から、環境教育（温暖化対策）の一環として学校の中庭の教室前に「緑のカーテン」を設置。教室温度3.5℃低下に成功。できることから始める環境教育の取り組みは、環境関連団体から高く評価され多くの表彰を受けています。

事業概要

夏季に、校舎（1階普通教室）南側につる性の植物を育てることで、日陰を作るとともに、気化熱により熱放射を抑制し、室内温度を下げます。

○ 目的

夏季の室内気温上昇を抑えることで教室環境を整えるとともに、安易に電気エネルギー等を利用せず自然の力を活用することを通して「自分でできること」を考え、「持続可能な社会づくり」の一端を担う生徒を育てます。

○ 具体的な活動

4月下旬、プランター・苗の準備

生徒会活動の一環として苗の育成、観察を行います。

土づくりと苗の育成については、NPO「土っ子の会」、員弁中学校学援隊の協力を得て行います。

理科の授業において緑のカーテンの植物を観察し、気孔の観察、食物連鎖、光合成等の学習を行います。

環境教育において重要なことは、「身近なところ」で「まず自分にできること」を実践していくことと考えています。

「持続可能な社会」を開発していくためには、禁止するだけであったり、遠くの世界の話をしてい

るだけでは前へ進めません。

小さな一歩であっても、「身近なところ」で「自分にできた」ことを増やしていくことが重要で、緑のカーテンがその一歩になればと考えています。

この活動に対して「知識だけでなく体験と実践を通して省エネルギーを考えている」「これからの持続可能な社会づくりの学びを提供している」等の評価をいただいています。



校舎南側の教室前に大きく育ったゴーヤ



ゴーヤに集まってくる昆虫の観察

評価・
マスコミ
紹介等

- ・H20年度みえ環境活動賞（三重県）
- ・第15回コカ・コーラ環境教育賞主催者賞（コカ・コーラ教育・環境財団）
- ・「三重の環境と森林」（三重県HP）に掲載
- ・読売新聞（H19年8月29日）、朝日新聞（H19年8月11日）、日本教育新聞（H19年9月3日）に掲載

お問合せ

教育委員会事務局 学校教育課
電話 0594-86-7844
FAX 0594-86-7871
住所 いなべ市北勢町阿下喜31

ブランドの目的

いなべブランド既存事業

いなべブランド
終了した
事業

いなべ市について

全国1位※の電子市役所

※人口5万人未満の自治体で

電子市役所推進事業

事業開始年月日 平成20年4月1日

こんなところが
「いなべブランド」

情報化への取り組みを評価する「自治体ITガバナンスランキング」(『日経BPガバメントテクノロジー』2008年春号)で、いなべ市はITの推進体制やセキュリティ管理が評価されて全国1位(自治体規模別ランキング人口5万人未満の部)を、また、「e都市ランキング2009」(同誌2009年秋号)では情報サービスやセキュリティ対策などが評価され、県内1位(全国58位、中部・東海エリア10位)を獲得しました。

事業概要

いなべ市のホームページからは、市の情報収集のほかに、政策意見公募、電子申請、クレジット納付、図書の検索・予約、文化施設や体育施設の仮予約、地理情報システムなどの各種オンラインサービスが利用できます。

また、携帯電話へのメール配信システムでは、訃報、防犯・災害情報、学校情報(スクールメール)など、生活に役立つ様々な情報を配信し、多くの市民に利用されています。

平成26年度からは、全国のコンビニエンスストアで住民票や納税証明書などを取得できる「証明書等のコンビニ交付サービス」を開始して、さらに利便性を高めました。

情報の保護に関しては、セキュリティポリシーを策定して市役所内の組織を確立し、内部監査やセキュリティ教育をはじめとする情報漏洩対策を実施しています。

順位	総合順位 (平均偏差値)	自治体名	人口*	電 子 市 役 所
1	12 (69.6)	いなべ市(三重県)	45381	
2	22 (65.1)	小野市(兵庫県)	49801	
3	55 (60.6)	篠山市(兵庫県)	46375	
4	56 (60.2)	南さつま市(鹿児島県)	42084	
5	74 (57.6)	美馬市(徳島県)	34881	
6	98 (55.5)	熱海市(静岡県)	41720	
7	112 (54.3)	八女市(福岡県)	42957	
8	115 (54.1)	豊後大野市(大分県)	42852	

一方、各種システムの導入や行政および学校のコンピュータ機器の一元管理により、電算関連経費の削減も実現しています。

評価・ マスコミ 紹介等

- ・登記届出オンライン手続件数(法務局)
全国1位(H25年)
- ・情報化進展度ランキング(摂南大学)
三重県下1位 全国市の部36位(H21年)
- ・e都市ランキング(日経BP社)
三重県1位 全国58位(H21年)
- ・自治体ITガバナンスランキング(日経BP社)
全国1位(人口5万人未満) 総合12位(H20年)

お問合せ

企画部 情報課
電話 0594-86-7744
FAX 0594-86-7858
住所 いなべ市北勢町阿下喜31

THIS IS INABE BRAND

いなべ市に
ついて

いなべ市について



ALPHARD(アルファード)



三重県の北の玄関口に位置するいなべ市は、北に養老山地、西に鈴鹿山脈をいただき、田園地帯が広がる緑豊かなまち。花の百名山「藤原岳」、笹原の「竜ヶ岳」、滝巡りの「宇賀溪」、西日本屈指の人気を誇る「青川峡キャンプパーク」など、豊かな自然が育むアウトドアスポットが満載です。また、日本でたった3路線しかない線路幅762ミリの「北勢線」が走るまちでもあります。

一世紀の時を刻むように、かわいい黄色の電車はのんびりと走り続けています。

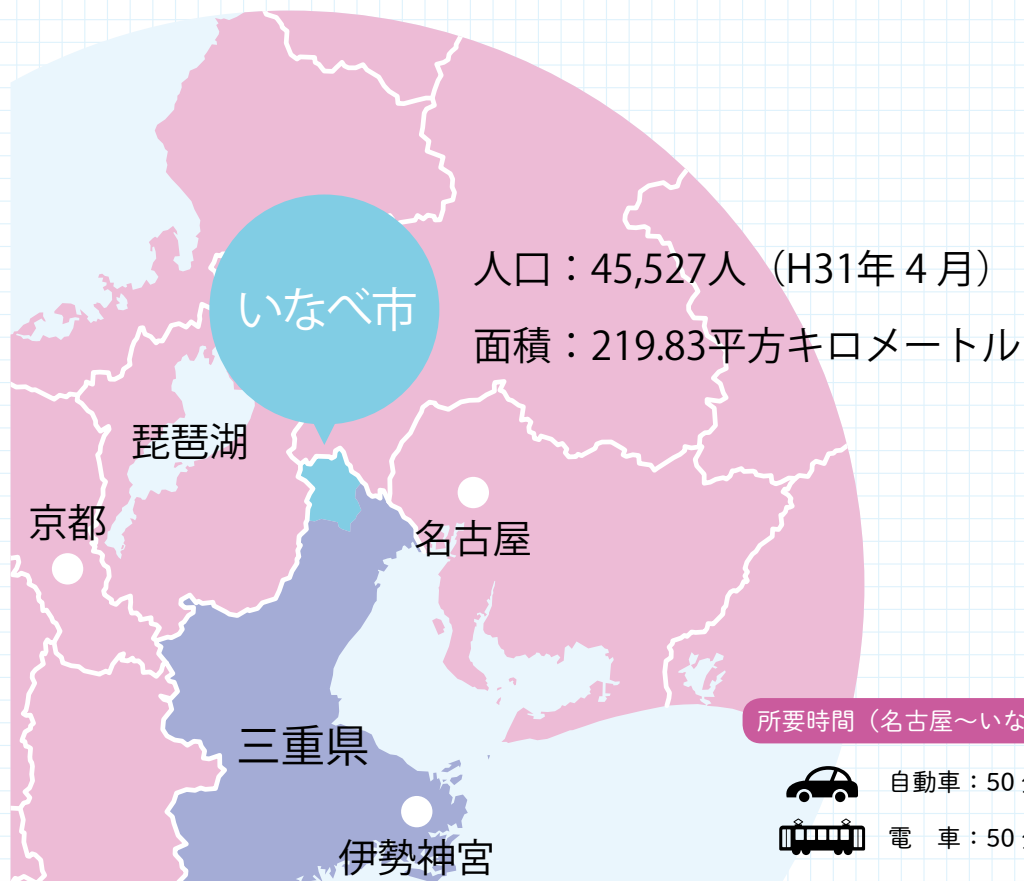


いなべ市は新しい時代「令和」の幕開けとともに、新庁舎を開庁しました。地域に根ざした行政サービスの提供と市の魅力を全国に発信する新しいタイプの市役所です。その新庁舎の隣には、市の新たなまちづくりの拠点施設「にぎわいの森」を整備しました。単なる商業・観光施設に留まらず、農と食のトップランナーたちによる新たな価値創造や働きがい・生きがいを感じる、まちづくり・ひとづくりの場としても活用していきます。

いなべ市のすがた

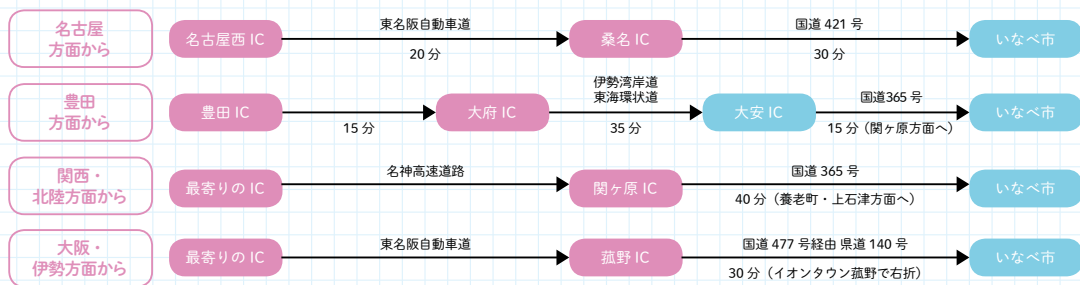
項 目		単位	いなべ市	調査年又は調査年度	備 考
総 面 積		km ²	219.83	平成26年度	一部境界未定のため概算数値です。
総 人 口		人	45,815	平成27年	平成27年国勢調査
人 口 密 度		人/km ²	208	平成27年	総面積1 km ² 当たり 平成27年国勢調査人口÷総面積
人 口 増 減		%	100.2	平成27年	平成27年国勢調査人口÷ 平成22年国勢調査人口
世 帯 数		世帯	17,106	平成27年	平成27年国勢調査
1世帯当たり人員		人	2.68	平成27年	平成27年国勢調査人口÷ 平成27年国勢調査世帯数
財 政	決 算 額	千円	22,221,167	平成29年度	平成29年度一般会計歳出決算額
	標 準 財 政 規 模	千円	13,441,009	平成29年度	平成29年度地方財政状況調査
	財 政 力 指 数		0.84	平成29年度	
	経 常 収 支 比 率	%	95.5	平成29年度	
実 質 公 債 比 率		%	7.3	平成29年度	平成29年度健全化判断比率
出 生 数		人	298	平成29年	人口動態調査 (平成29年1月1日～平成29年12月31日)
死 亡 数		人	501	平成29年	
転 入 者 数		人	2,027	平成30年	住民基本台帳人口移動報告 (平成30年1月1日～平成30年12月31日)
転 出 者 数		人	2,032	平成30年	
事 業 所	事 業 所 数	事業所	1,841	平成28年	平成28年経済センサス活動調査
	従 業 者 数	人	28,960	平成28年	
農 業	農 家 数	戸	1,001	平成27年	2015年農林業センサス
	耕 地 面 積	ha	2,127	平成27年	
工 業	製 造 事 業 所 数	事業所	206	平成28年	平成28年経済センサス活動調査
	工業従事者数(従業者4人以上の事業所数)	人	18,123	平成28年	
製 造 品 出 荷 額 等 (従 業 者 4 人 以 上 の 事 業 所)		万円	138,702,266	平成28年	
商 業	商 店 数	事業所	330	平成28年	平成28年経済センサス活動調査
	商 業 従 事 者 数	人	2,058	平成28年	
	年 間 商 品 販 売 額	百万円	44,698	平成28年	
学 校	小 学 校 数	校	11	平成29年度	平成30年度いなべ市教育要覧
	小 学 校 児 童 数	人	2,334	平成29年度	
	中 学 校 数	校	4	平成29年度	
	中 学 校 生 徒 数	人	1,200	平成29年度	
医 療	病 院 数	院	4	平成29年度	平成30年度桑名保健所年報 (平成29年度実績)
	一 般 診 療 所 数	所	26	平成29年度	
	歯 科 診 療 所 数	所	17	平成29年度	
	医 師 数	人	80	平成28年	
	歯 科 医 師 数	人	19	平成28年	
	看 護 師 数	人	439	平成28年	
	准 看 護 師 数	人	125	平成28年	
薬 剤 師 数	人	90	平成28年		

年は暦歴（1月から12月）、年度は会計年度（4月から翌年3月）を示します。

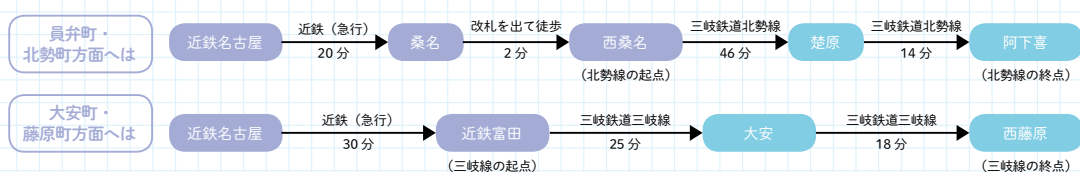


交通のご案内

お車のご利用



電車のご利用



★時刻等についてのお問合せ
 ・近鉄桑名駅 TEL:0594-22-0045 ・近鉄富田駅 TEL:059-365-0300 ・三岐鉄道 TEL:059-364-2141 ・三重交通 TEL:0594-72-2469

ブランドの目的

いなべ市ブランドの存在意義

いなべ市ブランドの構築

いなべ市について



INABE BRAND

2019 年版

発行日 令和元年 7 月 1 日

発行 いなべ市

編集 企画部政策課

〒511-0498 三重県いなべ市北勢町阿下喜 31 番地

TEL 0594-86-7741 <https://www.city.inabe.mie.jp/>